

## 「諸聖人の祝日」の説教

金 大烈 神父 2009年11月1日(日)

### 《生かす言葉、殺す言葉》

おはようございます。

今日の福音(マタイ5・1-12a)は私達が何度も接している内容です。もう一度思い出さないといけない部分だけを簡単に申し上げます。

この福音の中で出る‘貧しさ’や‘悲しみ’自体が幸福を意味するものではありません。ただ私達が幸せになる為に道案内の役割をすることです。大体そのような状況に置かれた人々がし易く心を開きます。少しだけ引っ張ってみても神様を直ぐ求めます。そして、神様の導きに出会います。それは、私達がいろいろな悲しさやむなしさに接した時に認めることになる自分の弱さに気がつき、自分を救ってくれる対象を探そうとする心があるからです。

今日の福音で必ず覚えて頂きたいのは、信仰を深める為に自分の弱さを認める事です。(しかし、自分の弱さを認めるのには気をつけなければならないところがあります。それは、他の人との比較によって自分の弱さを見てはいけない事です。人生を全体的に見なくてはなりません。)それがなければ「自分は信仰の生活をしています。」と何度言ってもいつも間違えに陥り、自分の頭で考え判断し全ての事を裁こうとします。自分と神様は違います。自分が神様になってあれこれ言うのは神様の御心に一番強く逆らう事です。それをカトリック的に表すと“傲慢”と言います。

皆様に質問を致します。「カトリック信者にとって幸福とはなんでしょうか？」覚えていただきたいと思います。カトリック信者の幸福は、神様が自分と共に伴っているかどうかで決まります。「あなたは幸せですか？」と尋ねられたら、自分の中に神様を必要とする心があり、神様も自分と共にいらっしやる事を信じている自分を確認して下さい。

そしてもう一つ大切な事は、神様は私たちにはある意味で無力な方です。なぜなら私達が心を開き受け入れなければ、神様は何も出来ません。神様と共にいれば幸せと信じるなら、いつも私達の心を開いて神様がいらっしやる用意をしておく必要があります。今日の福音で幾つかの種類の人々が“幸せ”であると書かれていますが、これは言葉の問題ではありません。豊かになっても貧しくなっても、笑っても泣いても、その中にキリストが居られれば幸せになれるのです。逆に何の時でもキリストがいなかったら、“幸せ”の反対側を歩くことになります。

正確に2週間前のこの席で、皆様に2つにビンを見せたのを覚えていらっしやると思います。赤いフタのビンと、青いフタのビンです。1ヶ月間、青いビンには希望のある言葉を、赤いビンには否定的な言葉をかけて、二つのビンの中に何の変化が見えるかを調べるように話しましたが、2週間で十分にその結果が見えたので、この実験を終えることにします。

さあ、ご覧になって下さい。青いフタはきれいな白いカビが生まれました。このビンには何か食欲が出るようないい匂いがします。これは癒すカビです。赤いフタの方はどうでしょう？黒カビが底の方から真っ黒に生えています。人間の体にとって一番悪いカビはなんでしょう？人間など生き物にとって被害を起すカビはこの黒カビです。その臭い黒カビが底の方から真っ黒に生えています。たったの2週間の結果です。このビンを呪っている自分の姿がいやになり、これ以上続けば自分も駄目になりそうで、2週間で止めました。そしてこの件で自分も反省しました。今までの人生の中で、自分も意識しないうちに汚い言葉を使っていたと思います。そして、たまには意識的に悪口を出した事もあ

るでしょう。その言葉によって傷ついた人がどの位いるのか考えたら怖くなりました。皆様もそうだと思います。

このビンは後で後ろに置いて置きますので確認して見て下さい

今日この実験を通してもう一度考えて見ましょう、私達の言葉は人を癒すことも、殺すことも出来ます。どちらを選ぶかは自分にかかっているでしょう。信仰の生活をしている私達は出来るだけ良い話をしながら人を癒し、自分も癒されるのが相応しいと思います。もう一回深刻に考えて頂きたいのです。

ありがとうございました。

赤いフタのビン



青いフタのビン

